1.研修プログラムの名称

リウマチ・膠原病内科研修プログラム

2.研修概要(理念・特徴)

初期研修では、短期間で一診療科をラウンドするので、概して見学に終わってしまうことが多いのですが、 リウマチ膠原病内科では、考えて行動・実践する姿勢を教育したいと考えています。医療チームとは、お互い がお互いを尊重し、お互いがお互いをカバーしあうことによって成り立ちます。研修医には研修医にしかでき ないこと、得意なことが必ずあるはずで、研修医にあった指導を目指しています。

3.一般目標

リウマチ膠原病はひとつの疾患が多彩な症状や多くの臓器病変を同時に呈し、さらにさまざまな合併症を呈す、複雑な疾患と捉えられがちですが、実際は非常に簡単です。例えば、治療薬としてはどの疾患もステロイド剤を基本的に使用し、難治性の場合には免疫抑制剤を併用しますが、実際に使用する免疫抑制剤は5種類程度です。大切なことは、確定診断が何かを決めること、症状が膠原病によるものか、または目和見感染症などの合併症によるものかを鑑別することです。最近は、分からなければすぐ検査の風潮ですが、患者さんの話を良く聞くこと、患者さんをよく診察することが解決の糸口になることが多いです。

4.具体的目標

- 1) 経験すべき診察法・検査・手技
 - 1. 全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる
 - 2. 一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む)の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 - 3. 血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 - 4. 血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など)
 - 5. 血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる(免疫細胞検査、アレルギー検査を含む)
- 2) 経験すべき症状・病態・疾患
 - 6. 全身倦怠感を診察し治療に参加できる
 - 7. 食欲不振を診察し治療に参加できる
 - 8. 発疹を診察し治療に参加できる
 - 9. 関節痛を診察し治療に参加できる
 - 10. 貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)を診察し、治療に参加できる
 - 11. 全身性疾患による腎障害(糖尿病性腎症)を診察し、治療に参加できる
 - 12. 全身性エリテマトーデスとその合併症を診察し、治療に参加できる
 - 13. 慢性関節リウマチを診察し、治療に参加できる
- 3) 全科共通項目
 - 14. 診療録(退院サマリーを含む)をPOSに従って記載し管理できる
 - 15. 処方箋、指示箋を作成し管理できる
 - 16. 診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
 - 17. 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5.指導体制・方略

指導医、臨床研修医から構成される診療グループに配属され診療にあたりますが、担当患者以外でも経験できる項目については経験することが可能である。

毎週火曜日午後に新患紹介と症例検討を行い、診療科長の回診を行います。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午						
前						
午		カンファレン				
後		ス、回診				

7.研修活動

膠原病の研究会があれば参加が可能である。

8.評価

1) 自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する EPOC を用いて自己評価を行う 研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

EPOC を用いて評価する
研修事後レポートより評価する
他者評価表を用いて評価する
研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう

3) コメディカルによる評価 EPOC 又は評価表を用いて評価する 他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

EPOC を用いて指導医(上級医)、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する 評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項